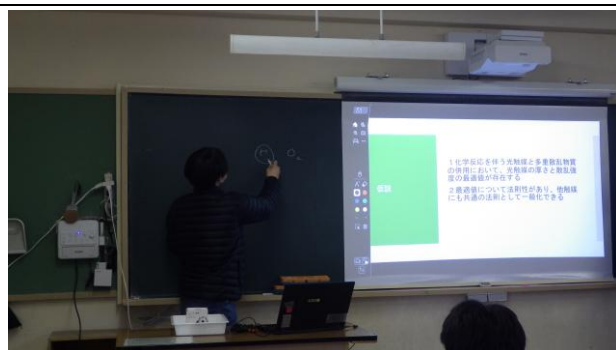


令和7年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	SSR I 「課題研究基礎」発表会 SSRA 「課題研究 A」 中間発表会
期 日	令和8年3月16日(月) 1～3限：普通科 令和8年3月19日(木) 6～7限：理数科
会 場	本校1年生各教室
対 象	1年生全員(普通科・理数科)
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮説を立てて、実験を行い、レポートにまとめ、発表する」という研究のプロセスを体験する。 ・理数科は、来年度の課題研究に向けて研究の方向性や、今後の展望について発表する。
内 容	<p>○普通科は8月から物理・化学・生物・地学・数学の各分野に分かれ行ってきた課題研究の成果をまとめ、各班による発表を行った。8月から、計16時間の授業を実施。今回はその内容をまとめ、各クラス10～12班の発表を行った。</p> <p>○理数科サイエンスコースは、各班の調べた内容とこれからの研究方針を発表し、メディカルコースは、研究の中間発表を行った。いずれのコースも活発な質疑応答が行われた。</p>



発表の様子(普通科)



発表の様子(理数科・サイエンスコース)

<p>アンケート 評価</p>	<p>【課題研究基礎】</p> <p>「協働して研究に取り組めた」という生徒が95%、「主体的に活動した」という生徒が94%と高い割合を示した。「科学への興味」も88%と高い割合が確認できた。一方で、「研究方法の独創性」や「発表のわかりやすさ」の数値が低く、テーマ設定や発表方法の指導に重点を置いた指導を行う必要がある。</p> <p>【課題研究 A】</p> <p>「興味がある」は90%、「内容が理解できた」は88%と非常に高い割合を示した。また「積極的に取り組めた」も85%に達しており、全体として前向きな姿勢が見られる。一方で、「計画的に進められた」は70%にとどまっているので、最初に研究に費やせる時間を確認して計画を立てたうえで進めさせることが必要である。</p>
<p>感想等</p>	<p>【課題研究基礎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班で協力して研究や発表に取り組めたことが良かった。 ・ 普段の授業ではできない実験や研究ができて楽しかった。 ・ 仮説→実験→結果→考察という研究の進め方を学ぶことができた。 ・ 時間管理や実験方法、発表準備の難しさを感じた。 ・ 他の班の発表から新しい視点やテーマの着想を得ることができた。 <p>【課題研究 A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ設定や調査を通して疑問が生まれ、主体的に学ぶ楽しさを実感できた。 ・ 実験結果の考察により、教科書以上の理解の深まりを感じた。 ・ グループでの意見交換で新たな視点に気づき、考えを広げられた。 ・ 資料収集や整理に時間がかかり、計画性の重要性を実感した。 ・ 発表を通して、分かりやすく伝える力の必要性を感じた。